

平成7年(1995年)3月16日 木曜日

日本環境保全

1700度Cで灰焼却

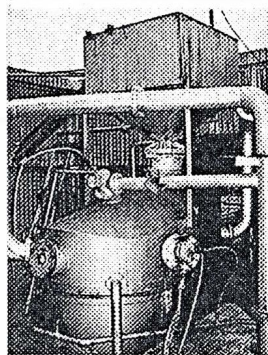
総合ごみ処理システム 超小型熔融炉を使用

廃棄物処理
機器メーカー
の日本環境保
全(社長・杉
山静素氏、茨
城県牛久市、
電話0298・74・3001)は、超小型熔融炉を使
用した総合ごみ処理システ
ム「JBO-021」を開
発した。



ば三千人規模の処理施設が
設置可能。
熔融炉の大きさは二三〇
〇×五二〇〇×四二一〇ミ
リ。セラミックスを使った
炉壁素材により二二〇〇度
Cの高温にも耐えるように
設計されており、バーナー
により焼却灰を一七〇〇度
Cで焼却・溶融し、そこで
生じる熔岩状の熔融物を二
〇―三〇度Cの水で急激に
冷やしてスラッシュを生成す
る。焼却灰は約五分の一に

減容化でき、生成されるス
ラッシュは粒度が〇・五―二
・五ミリと細かく、コンク
リート骨材や路盤材などに
再利用できる。熔融炉の燃
料には廃油が利用できる。
設置コストは、一日当た



りのごみ処理能力が五〇
ト、三千人規模の住民を対
象にした施設で十六億円前
後。設置面積は敷地約一〇
〇〇平方メートル、装置分のス
ペースだけでは三五〇―四五
〇平方メートル程度で済む。

現在、同社では茨城県鹿
島町で、超小型熔融炉とロ
ーターキルン式焼却炉を
組み合わせた施設の導入内
定を得ており、今夏に設置
を完了する予定。

一七〇〇度C以上の高温
焼却を可能にした焼却灰の
超小型熔融炉Ⅱ写真Ⅱを軸
に、粗大ごみ焼却炉、タイ
ヤ・ゴム類焼却炉、ロータ
リーキルン(回転)式焼却
炉、排煙処理装置を組み合
わせたシステムで、各種の
ごみをスラッシュの段階まで
一括処理できる。熔融炉の
小型化などにより、一〇〇
〇平方メートル程度の敷地があ

産業

機械・メカトロニクス

ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社